

種子島近海から得られたシマガツオ科魚類リュウグウノヒメの記録

畑 晴陵¹・高山真由美²・本村浩之²¹ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院連合農学研究科² 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

■ はじめに

シマガツオ科魚類 Bramidae は日本近海から 6 属 10 種が知られ (波戸岡・甲斐, 2013; Hibino et al., 2014), そのうちツルギエチオピア *Taractes rubescens* (Jordan and Evermann, 1887) を除く 9 種が鹿児島県から報告されている (畑ほか, 2015; 畑・本村, 2016; 畑, 2017, 2018). また, 本科魚類の 1 種, リュウグウノヒメ *Pterycombus petersii* (Hilgendorf, 1878) は漁獲されることが極めて稀な魚として知られる (Last and Moteki, 2001). 本種は幼魚期に極めて大きな背鰭と臀鰭をもち (波戸岡・甲斐, 2013), その特徴的な形態から日本近海において漁獲されると, 報告されることも多く (例えば田中, 1950; 水沢, 1964; 本間・杉原, 1964), 水族館において飼育が試みられたこともある (富山, 2013). しかし, 鹿児島県における記録は極めて少なく, 薩摩半島西岸 (南さつま市笠沙町沖) と大隅半島東岸 (内之浦湾) からのものに限られ (畑ほか, 2015; 畑, 2018), 薩南諸島における記録はなかった.

2016 年 7 月 20 日, 鹿児島県大隅諸島種子島北方から延縄により, 1 個体のリュウグウノヒメが漁獲された. 本標本は薩南諸島における本種の初めての記録となるため, ここに報告する.

Hata, H., M. Takayama and H. Motomura. 2018. First record of *Pterycombus petersii* (Perciformes: Bramidae) from Tanega-shima island, Kagoshima Prefecture, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 44: 311-314.

✉ HH: the United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1-21-24 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: k2795502@kadai.jp).

Published online: 13 Apr. 2018

http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_044/044-044.pdf

■ 材料と方法

計数・計測方法は Moteki et al. (1995) にしたがった. 標準体長は体長と表記し, デジタルノギスを用いて 0.1 mm までおこなった. 各種の生鮮時の体色の記載は, 固定前に撮影された鹿児島県産標本のカラー写真に基づく. 標本の作製, 登録, 撮影, および固定方法は本村 (2009) に準拠した. 本報告に用いた標本は, 鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており, 上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている.

■ 結果と考察

Pterycombus petersii (Hilgendorf, 1878)

リュウグウノヒメ (Fig. 1)

標本 KAUM-I. 88482, 体長 206.9 mm, 尾叉長 234.9 mm, 全長 261.1 mm, 鹿児島県大隅諸島種子島北方 (西之表市国上喜志鹿崎と肝属郡南大隅町佐多辺塚辺塚の間; 30°56'N, 130°57'E), 水深 130 m, 2016 年 7 月 20 日, 延縄, 漁船第三鳳洋丸が漁獲.

記載 背鰭条数 48; 臀鰭条数 40; 胸鰭条数 20; 腹鰭条数 I, 5; 縦列鱗数 49; 側線上方横列鱗数 7; 側線下方横列鱗数 12.

体各部測定値の体長に対する割合 (%): 体高 40.3; 体幅 10.7; 頭幅 11.3; 背鰭前長 18.7; 臀鰭前長 32.2; 腹鰭前長 26.0; 胸鰭前長 24.6; 背鰭基底長 76.7; 臀鰭基底長 70.0; 背鰭起部から胸鰭基底上端までの長さ 24.2; 胸鰭基底長 4.5; 胸鰭基底上端から臀鰭起部までの長さ 16.6; 尾柄長 11.4; 尾柄高 6.2; 頭長 24.5; 背鰭第 5 軟条長 5.3; 臀鰭第 5 軟条長 76.4; 後ろから数えて 5 番目の背



Fig. 1. Fresh specimen of *Pterycombus petersii*. KAUM-I. 88482, 206.9 mm standard length, north of Tanega-shima island in the Osumi Islands, Kagoshima Prefecture, Japan.

鱗軟条長 13.7；後ろから数えて 5 番目の臀鱗軟条長 13.5；尾鱗上葉長 29.3；尾鱗賀陽町 29.6；尾鱗中央軟条長 13.4.

体各部測定値の頭長に対する割合 (%)：吻長 24.5；水平眼窩径 31.6；最大眼窩径 31.9；眼隔幅 25.1；上顎長 53.3.

体は卵型で強く側扁し，体高は背鱗第 9 軟条起部で最大。体背縁は吻端から背鱗第 12 軟条起部付近にかけて上昇し，そこから尾鱗基底上端にかけて緩やかに下降する。体腹縁は下顎先端から臀鱗起部付近にかけて下降し，そこから尾鱗基底上端にかけて緩やかに上昇する。背鱗起部は眼の後端よりもわずかに後方，背鱗基底後端は臀鱗第 39 軟条起部直上にそれぞれ位置する。背鱗背縁は起部から第 12 軟条後端にかけて急に上昇し，そこから最後軟条である第 48 軟条後端にかけて緩やかに下降する。背鱗最長軟条は第 12 軟条で，体高よりも長い。背鱗前部の軟条はいずれもほぼ同じ大きさ。腹鱗起部は背鱗起部よりもわずかに後

方に位置する。ただ腹鱗の後端は臀鱗起部に達しない。胸鱗基底上端は背鱗第 8 軟条起部直下，眼の下端よりも下方に位置する。胸鱗基底上端は背鱗第 9 軟条起部直下，口を閉じたときの主上顎骨下端よりも下方に位置する。胸鱗後縁は丸みを帯び，後端は背鱗第 23 軟条起部直下に達する。胸鱗上縁，後縁，および下縁はいずれも直線状に近い。臀鱗起部は胸鱗上端と背鱗第 6 軟条起部よりもわずかに後方に位置する。臀鱗基底後端は背鱗基底後端よりもわずかに後方に位置する。臀鱗腹縁は起部から第 4 軟条後端にかけて急に下降し，そこから最後軟条である第 40 軟条後端にかけて緩やかに下降する。臀鱗最長軟条は第 4 軟条で，体高よりも長い。尾鱗は二叉型を呈し，深く湾入する。尾鱗は両葉の中央部まで被鱗する。尾鱗を除き，各鱗は被鱗しない。体側鱗は背腹方向に長い円鱗で，剥がれにくい。胸鱗よりも後方の各体側鱗の中央部に前後方向に長い隆起線がある。背鱗と臀鱗の基底部には前後方向に長い鞘状鱗が並ぶ。背鱗と臀鱗は左右の鞘状鱗の間にたたくことができる。吻部と下顎は無鱗。肛門は正円形に近い形状を呈し，臀鱗起部前方に位置する。眼と瞳孔はともに正円形。鼻孔は 2 対で眼の前方に位置し，互いに近接する。前鼻孔は正円形，後鼻孔は背腹方向に長い裂孔状をそれぞれ呈する。口は大きく，上顎後端は瞳孔先端よりも後方に達する。下顎先端は上顎先端よりも突出する。上顎には鋭い円錐形の歯が側部で 1 列に，先端付近で 2 列に並ぶ。下顎には鋭い円錐歯が側部で 2 列に，先端付近で数列に並ぶ。

色彩 生鮮時の色彩 体は一様に銀白色。背鱗と臀鱗の各軟条は白色。背鱗と臀鱗の各軟条間の鱗膜は黒色を呈し，背鱗中央部と臀鱗下縁の鱗膜は灰色。腹鱗は一様に黒色。胸鱗は白色半透明を呈し，腋部は黒色。尾鱗は黒色を呈し，後縁は半透明。尾鱗状の鱗は銀白色。瞳孔は銀白色を呈し，虹彩は青みがかった黒色。

分布 南アフリカ大西洋沿岸とアフリカ東岸から日本，ニュージーランド北方，キリバスにかけてのインド・太平洋に広く分布する (Mead, 1972; Last and Moteki, 2001; 波戸 岡・甲斐,

2013). 日本国内においては東北地方沖から慶良間諸島にかけての太平洋, 北海道から山口県にかけての日本海沿岸, 薩摩半島西岸, 九州-パラオ海嶺, および東シナ海から記録されており (山田ほか, 2007; 波戸岡・甲斐, 2013; 畑ほか, 2015; 藤原ほか, 2018; 畑, 2018), 新たに本研究により, 大隅諸島種子島近海における分布が確認された。

備考 種子島産の標本は背鰭起部が眼の後端よりもわずかに後方に位置すること, 背鰭と臀鰭の前部の軟条がいずれもほぼ同じ太さであること, 背鰭と臀鰭が被鱗しないなどの特徴が Mead (1972) や Last and Moteki (2001), 波戸岡・甲斐 (2013) の報告した *Pterycombus petersii* の特徴とよく一致した。

リュウグウノヒメの日本国内における分布状況と和名の変遷は, 畑ほか (2015) と畑 (2018) に詳述されている。分布の項目で述べたとおり, リュウグウノヒメの日本国内における分布は広いものの, 本種の鹿児島県内における記録は極めて少なく, 以下の3例に限られる: 畑ほか (2015) が薩摩半島西岸に位置する南さつま市笠沙町と坊津町の沖から定置網により得られた2個体 (KAUM-I. 12001, 体長 168.0 mm, KAUM-I. 30506, 体長 132.1 mm) を報告したもの; 畑 (2018) が大隅半島東岸に位置する内之浦湾において定置網により得られた1個体 (KAUM-I. 101850, 体長 158.1 mm) を報告したもの; 公益財団法人鹿児島市水族館公社 (2018) が内之浦湾から得られたもの [畑 (2018) が報告した個体と同じ] と薩摩半島西岸に位置する秋目から得られた個体 (標本は残されていない) を報告したもの。したがって, 種子島北方から採集されたリュウグウノヒメは, 本種の薩南諸島における初めての記録となる。

■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり, 漁船第三鳳洋丸の皆様, 種子島漁業協同組合の皆様には標本の採集に多大なご協力をいただいた。鹿児島大学総合研究博物館ボランティアと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには適切な助言を頂いた。以上の

方々にこの場を借りて感謝申し上げる。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は JSPS 研究奨励費 (DC2: 29-6652), 笹川科学研究助成金 (28-745), JSPS 科研費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPS 研究拠点形成事業- B アジア・アフリカ学術基盤形成型, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, 文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」, および鹿児島大学重点領域研究環境 (生物多様性・島嶼プロジェクト) 学長裁量経費の援助を受けた。

■ 引用文献

- 藤原恭司・田上英明・毛利雅彦・鎌野 忠・秦 一浩・岡田翔平・永井節子・本村浩之. 2018. 山口県響灘および見島から採集された日本海初記録を含む魚類. 水産大学校研究報告, 66 (2): 47-80.
- 畑 晴陵. 2017. ヒレジロマンザイウオ *Taractichthys steindachneri* (Döderlein, 1883). P. 162. 岩坪洗樹・本村浩之 (編), 火山を望む甕海 鹿児島湾の魚類. 鹿児島水圏生物博物館, 鹿児島・鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 畑 晴陵. 2018. シマガツオ科. Pp. 268-269. 小枝圭太・畑 晴陵・山田守彦・本村浩之 (編), 黒潮あたる鹿児島湾の海 内之浦漁港に水揚げされる魚たち. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 畑 晴陵・伊東正英・山田守彦・高山真由美・本村浩之. 2015. 標本に基づく鹿児島県のシマガツオ科魚類相. *Nature of Kagoshima*, 41: 73-93.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2016. トカラ列島から得られたゴマサバの胃内容物から見つかったマルバラシマガツオ (シマガツオ科). *Nature of Kagoshima*, 42: 203-206.
- 波戸岡清峰・甲斐嘉晃. 2013. シマガツオ科. Pp. 905-909, 1998-1999. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.
- Hibino, Y., Okada, M., Moteki, M. and Kimura, S. 2014. Redescription of the shortfin pomfret, *Brama pauciradiata*, based on Japanese specimens (Actinopterygii: Perciformes: Bramidae). *Species Diversity*, 19: 111-115.
- 本間義治・杉原千代太. 1964. 日本海で得られたリュウグウノヒメ. 採集と飼育, 26 (9): 245.
- 公益財団法人鹿児島市水族館公社. 2018. 鹿児島水族館が確認した - 鹿児島湾の定置網の魚たち 増訂版. 335 pp. 公益財団法人鹿児島市水族館公社, 鹿児島.
- Last, P. R. and Moteki, M. 2001. Bramidae. Pp. 2824-2835 in Carpenter, K. E. and Niem, V. H. (eds.) *FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific, volume 5: Bony fishes part 3 (Menidae to Pomacentridae)*. FAO, Rome.

- Mead, G. W. 1972. Bramidae. Dana Report, 81: 1-166, pls. 1-9.
- 水沢六郎. 1964. 新潟県で得たりゅうぐウノヒメ. 採集と飼育, 26 (7): 183.
- Moteki, M., Fujita, K. and Last, P. R. 1995. *Brama pauciradiata*, a new bramid fish from the seas off tropical Australia and the Central Pacific Ocean. Japanese Journal of Ichthyology, 41: 421-427.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)
- 田中市郎. 1950. 珍魚の誉. 62 pp. 萩文化協会, 萩.
- 富山晋一. 2013. 駿河湾で採集されたりゅうぐウノヒメ. 海のはくぶつかん, 43 (2): 6.
- 山田梅芳・時村宗治・堀川博史・中坊徹次. 2007. 東シナ海・黄海の魚類誌. 東海大学出版会, 秦野. 1262 pp.